

## 環境ホルモン

## 一般人の精子数は 有機農家の約半分

普通の食品を食べている人の精子数は有機食品を食べている人のほぼ半分でした。環境ホルモン作用のある農業の摂取が精子数を減らしたと疑われています。



ドイツの市民団体エコロッパのクリスチーナ女史から伺った衝撃情報を必死に探したところ、2つの報告が見つかりました。

### 25%以上を有機食品にすると

一つは、1994年にデンマーク有機農家協会の会合参加者30人の精液を調べた報告です。精液提供者のほとんどが有機栽培農家かその関係者で、彼らが食べる乳製品の半分以上は有機食品です。

彼らの精液の精子数が1ml中1億だったのに対して、普通の食生活をしている事務職の約70人は、平均5400万でした。つまり、事務職の人たちは、有機農家の半分くらいしか精子がなかったのです。

もう一つは、96年にデンマーク有機食品協会会員の精子を分析した報告です。

日常の食生活で少なくとも25%以上を有機食品にしている55人の精子数は、1ml中9900万だったのに、航空関係の仕事で普通の食生活をしている141人の平均値は、6000万でした。こちらもほぼ6割しかありませんから、有機食品を食べている人の方が精子が多いことは確実です。

2000万を下回ると生殖不能ですから、普通の食生活では、人類の存続は危うくなります。昔から言われていたように、有機農業が人類を救うのです。

### 本物の有機食品を

両報告とも、精液量に著しい違いがみられないなどから、農薬が残留する可能性のある食品の摂取と、低い精子濃度に、直接的な因果関係があるとは断定していません。しかし、性を攪乱する環境ホルモン農薬を、その原因として疑っています。

有機食品を食べている人の精子数はほぼ正常ですから、環境ホルモンから身を守るには、たとえ多少高価でも、まず有機食品を食べることから行動を始めるのが有効と考えられます。

日本の場合、スーパーなどで販売されている“有機食品”は、アワ・ヒエ・キビなどの検査で明らかになったように、ニセモノがたくさんあります(『食品と暮らしの安全』93・94号)。

いま、信用していい有機食品は、信頼できる団体に認証されたものか、信頼できる提携運動の中で出回っているものです。それ以外は信用できないと考えて、消費者は対応する必要があります。

(ワシントン支局・見宮美早)

出典1) [High Sperm density among members of organic farmers' association]  
Annette Abell, Erik Emst, Jens Peter Bonde,  
THE LANCET, Vol.343, June 11, 1994, p.1498.

出典2) [Semen quality among members of organic food associations in Zealand, Denmark]  
Tina Kold Jensen, Niels Skakkebaek, etc.,  
THE LANCET, Vol.347, June 29, 1996, p.1844.



## 特集2 環境ホルモン

## 「キレ」る子供と関係？ 脳神経に影響する環境ホルモン

ナイフによる  
子供たちの「異常」な事件が相次いでいます。  
事件をおこしたのは  
「がまんのできない子供たち」ではなく  
環境ホルモンの被害者かもしれません。



### 実験動物から子供が見える

小学校の教員になって20年以上になるYさんは、環境ホルモンの問題を告発した『奪われし未来』を読みながら、鳥肌が立ってきました。汚染されたエサを食べたラットやマウスに、クラスの子供たちの姿がだぶって見えてきたからです。

授業中に奇声をあげたり、大声でわめいたり、教室の外に出て行ってしまふ。「子供たちがおかしい」「子供たちが荒れている」と新聞や雑誌で取り上げられる事例はそのまま、Yさんのクラスと同じです。

そこで、『奪われし未来』に出てくる例と、日本の子供たちの共通点をYさんの話をもとにまとめ、原因を探ってみました。

[合成化学物質にさらされた動物は攻撃的になる] (奪われし未来：p348)

最近の子供は

◎ちょっとしたことで「むかつく」と、壁やドアを蹴り続け、そのあげく蹴破ってしまう。

◎友達とのささいなトラブルでイスを投げ飛ばしたり、机を蹴倒してしまう。

◎ことが、よくあります。

[それほどストレスのたまらないような状況であっても、オンタリオ湖の汚染魚を与えられたラットには、「過剰反応」が現れた。] (ほんの少しのストレスでも過剰に反応してパニックになってしまう。p289)

◎友達が自分の悪口を言っていると感じ「キレ」てドアを蹴飛ばしガラスを割る、そばで「やめろよ」と注意する友達の声もまったく聞こえず、そのとき本人の頭の中は「真っ白」だったという。興奮状態からおさまるのに1時間かかった。

◎何か課題を与えた時に、その課題ができないとパニックになる、一回パニックになるとしばらくはおさまらない。

### 20年前から「子供の体がおかしい」

[オンタリオ湖の魚を食べていない女性の子供は、すぐに馴れてしまったのに対し、オンタリオ湖の魚を食べていた女性の子供は馴化(じゅんか=適応)能力に乏しく、刺激が繰り返されるたびにいちいち反応を見せた] (p291)

◎授業中の40～45分間静かに授業を受けるとか、朝礼で集まったらきちんと並ぶといった、ちょっとした集団の約束事に6年